

日本最大級の「食」のイベント 「'17食博覧会・大阪」 いよいよ来春開催

The International Food Expo UTAGE in OSAKA

2017年4月28日(金)～5月7日(日)

インテックス大阪(大阪市住之江区南港北1-5-102)
11:00～20:00(最終日は19:00)

入場料 大人/前売1,600円(当日2,200円)
子ども/前売 800円(当日1,100円)

主催 食博覧会実行委員会 (一社)大阪外食産業協会
(公財)関西・大阪21世紀協会



ホームページで情報発信中! [食博覧会2017](#) [検索](#)

注目は初企画“北前船寄港地ゾーン”

関西・大阪21世紀協会が総合監修を務める「食博覧会・大阪」が、いよいよ来年のゴールデンウィークに開催される。日本の外食産業を広くアピールする目的ではじまったこのイベントは、1985年の第1回以来4年毎に開催し、2017年で第9回、32年間にわたる取り組みだ。今や大阪から和食文化を内外に発信する場となっている。

食博は47都道府県のご当地グルメが楽しめるほか、世界の料理・菓子・酒類や食育、食に関する祭りやエンターテインメントなど、大人から子どもまで楽しめる多彩なプログラムで、期間中は60万人を超える(8回累計480万人)来場者で賑わう。前回(2013年)は387企業・団体(660ブース)が出展し、海外からも22か国・地域が参加。宴テーマ館やくだおれ横丁館、日本・世界の味覚館、食博劇場などで連日大好評を博した。今回は、初企画として“北前船寄港地ゾーン”を設け、酒田市(山

形県)をはじめ、大阪と関わりの深い寄港各地の特産品が紹介される。

北前船は江戸時代に“天下の台所”と謳われた大坂の繁栄の礎をつくった西回り(日本海・瀬戸内海航路)廻船で、これを介して海産物や情報が交流し、寄港各地の発展を促した。今回は、関西ではあまり知られていない寄港地の特産品を紹介し、かつての北前船の再現を目指す。各地の郷土食をはじめ、東北三大祭りのねぶた祭(青森)、竿燈まつり(秋田)、七夕まつり(仙台)も披露される。

2013年に「和食」がユネスコ世界無形文化遺産に登録され、今や日本の食文化は世界の注目を集めている。2020年東京オリンピック・パラリンピックを3年後に控え、'17食博覧会は健康的な日本食の魅力を世界に広める絶好の機会として、官民の意気込みが高まっている。

賑やかに「開催1年前決起大会」を開催

食博覧会実行委員会は、今年4月28日、リーガロイヤルホテル(大阪市北区)で、実行委員をはじめ行政関係者、出展予定者、マスコミ関係者など約500人による「'17食博覧会開催1年前決起大会」を開催した。冒頭、実行委員会会長の本荘武宏氏(大阪ガス株式会社代表取締役社長)は、「和食がユネスコ世界無形文化遺産に登録されて初の開催となり、出展者募集説明会に多くの団体が参加するなど、食博に対する関心は高い。1年後の成功に向けて、“チーム食博”の結束を高めよう」と呼びかけ、和太鼓演奏(打打打団太鼓)の披露で、大阪らしく賑やかに士気を盛り上げた。

会場には東北、近畿、中国、九州、沖縄から14府県のPRブースや、地方新聞協賛による郷土食の試食コーナーも設置。この日は前売券の発売日にもあたり、決起大会で販売した前売券の売り上げは、同月14日に発生した熊本地震の復興支援として、全額熊本県に寄付された。



食博成功に向け声を上げる実行委員会役員